

## ゴールドカード

松浦 純子

娘の夫が三年ぶりにイタリアに帰国することになった。日本の伝統的なものをおみやげに持って帰ってもらおうと考えて銀座へ出かけた。以前、私たちが彼の実家に伺った時にも日本の伝統品を持って行ったが、その時とても喜んでくれたので、今回も同じところで探すことにした。四歳の男の子と二人で帰国することになっていくが、じっとしていない子供を連れての旅は考えるだけでも疲れる。重いものや壊れやすいものは持たせられないと考え、おみやげは紙製品や布製品の中から探すことにした。三五〇年以上続く老舗に有楽町駅から直行した。その店の屋号は江戸時代の儒学者の室鳩巢が、中国最古の詩集『詩経』の一節からとったそうだ。店の名前には出典も大事だと感じた。

品物を見つけて「会計」に向かった。「レジ」という言葉はふさわしくない。土曜日の午後ということでかなり混んでいたが、店員はさすがに一人一人に丁寧な対応である。高級レストランかそのような店を経営していると思いき女性が馴染みの外国人の男性客と仲良く一緒に買い物をして会計に並んでいる。彼へのおみやげを買いに来たのだろうか、それとも彼に頼まれておみやげを探しているのだろうか。和服を着ている女性も意外という。

買った品を包装してもらっている間に、周りの人を見ると皆カード払いである。否が応でもそのカードが目に入る。「あっ、ゴールドカード」、「おっ、この人もゴールドカード」。きれいな所作をしているなど見とれていた人はゴールドカードの出し方も上品だ。その人のカードは照明に反射して、よりステータスが高く見える。私のはといえば、年会費無料でいかにもランクの低そうなカード。実益本位の私は暗証番号を打ち込んで店を出た。

私も人並みにゴールドカードを持っているが、空港のラウンジだけで使うと決めている。いろいろなカードを持ち歩きたくないのと、以前不正使用された経験からである。数年前のある日、カード会社から請求書が届いた。中を開くと身に覚えのないものを購入している。「ピザ」、「コンピュータの部品」等々。慌ててカード会社に電話して、「買い物に使ったことはない、空港のラウンジでしか使ったことがない」と説明し理解してもらった。すぐに新しいカードが届き、それからは全然不正使用はない。どこで情報が漏れたのか、空港以外に考えられないが未だに謎である。